

# 北海道水産会

NO.268

January ◆ 2017



北海道水産会  
ウェブサイトトップページ

北海道漁業就業支援協議会  
スマホ-ウェブサイトトップページ

北海道水産会 ▶ | 北海道漁業就業支援協議会 ▶ | [お電話でのお問い合わせ 011-271-5051](tel:011-271-5051)  
〒060-0003 札幌市中央区北3条西7丁目 北海道水産ビル

Hokkaido Fisheries Association.  
一般社団法人 北海道水産会

21世紀北海道の水産業振興を担う団体です

ホーム | [ごあいさつ](#) | [北海道水産会とは?](#) | [情報公開](#) | [交通アクセス](#)

**トピックス TOPICS** [これまでの一覧▶](#)

- 2017年01月01日 **NEW**  
平成29年元旦 年頭所感
- 2016年11月22日  
2017年操業日口地先沖合漁業交渉に関する中央要請活動を実施!!
- 2016年11月01日  
常呂中学校お魚普及・調理講習会を北見市常呂町で開催しました
- 2016年10月04日  
中標津町で「漁師さんの出前授業」が開催されました
- 2016年10月03日  
厚沢部町の錦小学校で「積山漁業士会出前授業」を実施しました
- 2016年09月23日  
紋別市で「親子料理教室」を開催
- 2016年07月18日  
今年度初めての魚食事業「今年もイカでいかせてもらいます!」を開催
- 2016年02月29日  
今年度最後の「魚食普及事業」を福島小学校で実施しました
- 2016年02月24日  
2016年日口さげ・ます漁業交渉に関する中央要請活動を実施!!
- 2016年02月04日  
「イカ・マダラ食料教室」を開催

**刊行物 MAGAZINES**

- 北海道水産会 No.267 **NEW**
- 北海道水産会 No.266
- 北海道水産会 No.265
- 北海道水産会 No.264
- 食べるって大切だね3
- 食べるって大切だね2
- 食べるって大切だね1

北海道漁業就業支援協議会  
[お電話でのお問い合わせ \(011-280-3007\)](tel:011-280-3007)

北海道で漁師になろう!  
漁業就業支援協議会とは

漁師になる近道  
交通アクセス

長期定住研修とは

**漁業就業支援フェア情報**

最新情報 What's New

[これまでの情報一覧▶](#)

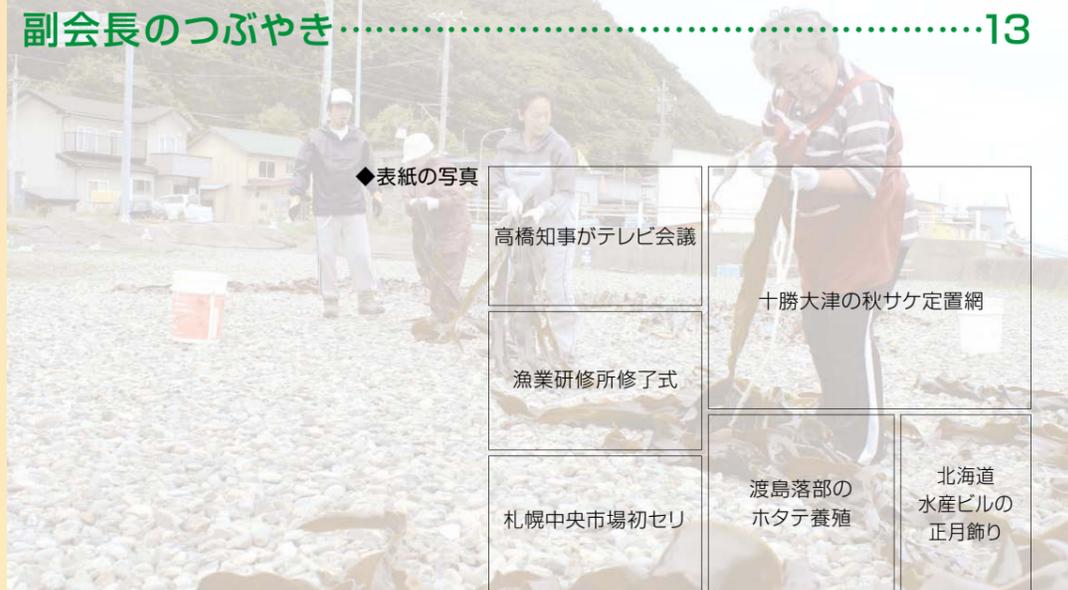
- 2017年01月05日 **NEW**  
平成28年度「北海道漁業就業支援フェア2017 in さっぽろ」の出展団体が決まりました
- 2016年11月17日  
平成28年度の漁業研修生を対象とした面談が終了
- 2016年11月08日  
「北海道漁業就業支援フェア2017 in さっぽろ」のチラシができました
- 2016年10月20日  
北海道ふるさと移住定住推進センターで漁業就業関連資料を配布

# 北海道水産会

CONTENTS

NO.268  
January ◆ 2017

新年のごあいさつ.....1  
 平成29年 新年の集い.....2  
 平成28年度 後期活動のあらまし.....4  
     2017年北方四島周辺海域の操業に係る日ロ漁業交渉  
     2017年日ロ地先沖合漁業に係る取り組み  
     国費予算等の措置に係る活動  
 平成28年度 北海道水産会第三回理事会開催.....6  
 <トピックス>.....7  
     漁業就業関連資料を「どさんこ交流テラス」で配布  
     サハリン州政府漁業庁職員が本会を訪問  
     ロシア人すけとうだら研究者の来道  
 魚食普及・食育活動.....8  
     魚食普及・食育PR活動  
     ファストフィッシュに新たなカテゴリー  
 漁師になりたい若者と浜をつなぐ活動.....10  
     長期研修生への面談活動  
 北方地域漁業権をめぐる活動.....12  
     北方地域漁業権補償推進委員会理事会と代議員会の合同会議開催  
     北方地域漁業権補償推進委員会の道及び中央への要請  
 副会長のつぶやき.....13



## 新年のごあいさつ

一般社団法人 北海道水産会 代表理事会長

川崎 一好

新年、明けましておめでとうございます。皆様には、お元気で新春を迎えられましたこととお慶び申し上げます。

さて、本道水産業界を取り巻く状況は、この一年間、大きく変化致しました。年明け早々、ロシア200海里内のさけ・ます流し網漁業が禁止となり、代替漁業として、いわし・さば等の試験操業が実施されました。また、8月と9月の台風や豪雨では、大量の流木が漂流・漂着する等、かつて経験した事のない甚大な被害が発生しました。現在、被災施設の早期復旧と

漁業経営の安定に向け、国や道をはじめ関係機関が全力を挙げて取り組んでいるところです。これからは本道漁業の体質を災害に強い生産構造に早急にシフトして行く必要があると改めて感じております。

また、昨年は、本道漁業の基幹魚種である帆立、秋鮭、昆布が大減産となる他、いか、ほっけ、さんま等も低調に終わるなど、全道で前年の100万トンを下回る状況となり、漁業・水産加工業はもとより、関連業界を含め非常に厳しい一年でした。

このような状況にあるからこそ、将来にわたり持続的な生産体制を確保して行くことが重要であり、これまで以上に攻めの水産業を展開して行くことが求められているものと考えております。そのためにも、リース漁船や省力化機器の導入に対する国の支援をしっかりと活用して、コスト低減や省力化による収益性の高い操業体制に本道漁業を転換して行くとともに、世界的な和食ブームの好機を生かして、海外で高い評価を得ている道産水産物の輸出拡大を積極的に進めて行く必要があると考えております。

さらに、漁業を安定かつ計画的に継続させるには、現在着実に進行している漁業就業者の減少と高齢化対策も必要であり、国や道・水産団体はもとより、漁協・組合員・地域市町村が一体となって取り組んで行くことが大切です。水産会と致しましても、引き続き、新規漁業就業確保・育成事業を実施して参ります。

本道水産業界が、近年めまぐるしく変わる自然環境や社会経済情勢に的確に対応すると共に、果たすべき役割を確実に遂行することにより、漁村が豊かになって行くものと考えております。

今年一年、本会も精一杯頑張っておりますので、皆様のご理解とご協力を厚くお願い申し上げます。新年のご挨拶と致します。



# 平成29年 新年の集い

平成29年1月10日（火）に北海道水産団体「2017年 新年の集い」を開催致しました。

系統団体長・会員団体長をはじめ、常勤役員の方々、ご来賓として高橋北海道知事、荒川副知事、小野寺水産林務部長、水産林務部幹部の皆様、総勢約80名の方々が出席されました。

主催者挨拶 一般社団法人北海道水産会 代表理事 会長 川崎 一好



新年、明けましておめでとうございませう。皆様には、お元気で新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

昨年は、台風により養殖施設を含め大きな被害を受けました。激甚災害の指定は受けましたが、全てを国や道に直して頂く訳にはいきませんが、我々漁業者が必死になって努力しなければなりません。本道の水揚量が100万トンを超えてきたこと、この水揚量を100万トンに戻さなければなりません。私達漁業者や関連業者の皆様は今まで以上に苦勞とご協力を頂かねばなりません。国や道のご指導とご協力を頂きながら100万トン台をキープしなくてはなりません。気候変動は私達の力ではいかんともしがたいものです。しかしながら、私達がつくり育てる漁業を推進し、環境変化に対応した漁業を築くことで、少しでも浜の経済力が増し、本道の水産全体が裕福な形に生まれ変われるような一年にして行かなければなりませんので、関係各位、皆様方のご理解とご協力をお願い申し上げます。開会のご挨拶と致します。

来賓挨拶 北海道知事 高橋 はるみ



の増加も現われております。

道産食品は2025年までに1、500億円の売り上げを目指していますが、本道の基幹産業である水産が大きな役割を担っていることから、魅力ある漁業、生産量の早期回復と安定をはじめ各般の取り組みを積極的に進めて参ります。北海道のキャッチフレーズ「その先の、道へ。北海道」を合言葉に、無限の可能性を秘めた本道水産業界の発展につなげるよう、新たな一歩を踏み出す一年と致しましょう。

結びに、厳しい冬の漁が続く中、くれぐれも安全操業とご健康にご留意され、浜が大漁に沸き、新しい年が幸多き年となることをご祈念し、挨拶と致します。

乾杯のご発声 北海道副知事 荒川 裕生



ご指名ですので、乾杯の音頭を取らせて頂きます。

昨年は、自然災害などの影響もあって、漁業生産量が落ち込むなど、大変厳しい一年でありました。道と致しましては、秋さけの資源回復や災害に強いほたて貝の漁場造りなど、全国の

約4分の1の生産量を誇る水産物の供給基地として、その役割が果たせるよう、しっかりと対応して参ります。

また、今年、平成30年度からスタートする本道水産業の次期長期計画（5カ年）の見直しの年です。海洋環境やグローバル化する国際情勢の変化等に、的確に対応し、時代の荒波を乗り越えるための計画を皆様とともに策定して参りたいと考えております。

最後に、皆様のご健勝と、皆様の浜が大漁に沸くことを心よりご祈念し、乾杯致します。

一言挨拶 北海道漁業共済組合組合長理事

全国共済水産業協同組合連合会北海道事務所長 福原 正純



だと思っております。

さて、共済では、漁獲共済と積立ぶらすで80億円を超える支払いの見込みであり、共水連では台風被害に対する支払い額が、約2億円となり、支払いほぼ完了の状況であります。

最後になりますが、今後とも皆様方のご指導とご鞭撻を受けながら事業を推進して参りますので、よろしくお祈り致します。

北海道漁業信用基金協会理事長 松居 俊治



皆様、新年明けましておめでとうございませう。昨年、自然と共存している我々漁業者にとつて、厳しい一年でありました。また、基金協会にとりまして、リース事業の保証や災害による融資保証などがありました。

また、今年4月3日の全国協会の新設合併に

向け、作業を進めているところでありませう。いずれにしても、漁業経営の安定に資するということ、基金協会の理念のもと、系統団体の一つとして役員一同、努力して参りたいと考えております。

本道漁業の益々のご発展と皆様方のご健勝とご活躍をご祈念致しまして、ご挨拶と致します。



会場の様子



道庁幹部の紹介

締め挨拶 北海道水産林務部長 小野寺 勝広



新年の集いの締めにあたりまして、ご挨拶申し上げます。

昨年は、漁業生産量の減少ということで、年末も暗い気持ちであり、「申年」だったので、早く「去って」欲しいと願って参りましたが、新年を迎え、皆様のお顔を拝見していると、意欲に満ちあふれており、今年は「酉年」ということで、皆様とともに、魚をたくさん「獲り」に行くぞと、意を強くした次第です。

私は、職員に、これも鳥の名前が入った、上杉鷹山の「為せば成る、為さねば成らぬ何事も」という言葉を良く引き合いに出して話します。今後も私は勿論、ここに揃った水産林務部の職員が粉骨砕身して、本道の水産業・漁村の発展のために、積極的に行動を起こしてまいり存です。

またまだ、冬場の厳しい操業が続きますが、安全操業を第一に、海難事故が無く、皆様の浜が大漁に沸くことを心よりご祈念し、一本締めを致します。



一本締め



トピックス

漁業就業関連資料を「どさんこ交流テラス」で配布

北海道庁が移住促進を目的に10月1日、東京に新設した「北海道ふるさと移住定住推進センター（どさんこ交流テラス）」で、北海道漁業就業支援協議会が発行する漁業就業関連の冊子や漁業就業支援フェアのチラシを無料配布しています。北海道で漁師になりたい人は道外にも多くいるため、協議会のウェブサイトの訪問者が最も多い東京で資料を配付することにしたのです。

新規開設された「北海道ふるさと移住定住推進センター（どさんこ交流テラス）」  
・東京交通会館8階(東京都千代田区有楽町2-10-1)



サハリン州政府漁業庁職員が本会を訪問

ロシア連邦サハリン州政府漁業庁職員のカピトノフ・エフゲニー氏が平成28年9月9日に本会を訪問しました。カピトノフ氏は、平成4年から行われている、北海道と極東三地域(サハリン・沿海・ハバロフスク)行政機関との相互交流研修の一環で来道したもので、9月3日から9月10日までの8日間にわたり、座学や関係施設、研究機関の視察を通して本道の水産業に関する知識を深めました。

本会のあらしや、各種対口漁業交渉との関わり、担い手・食育問題への取組みなどの説明を受けたカピトノフ氏は、「北海道の水産業における主要な業界団体に関する知識を深めるために、貴会を訪問した。興味深い話を聞いて感謝している。協力を継続し、積み重ねていくことで、日本とロシア、北海道とサハリンの友好が強まっていくことを確信している」と応じました。



本会業務について説明を受ける

記念撮影

ロシア人すけとうだら研究者の来道

サハリン漁業・海洋科学調査研究所(サフニコ)の研究者がすけとうだら刺し網漁業の試験的操業に参加するため、平成29年1月18日に来道しました。試験的操業と研究者の受入れは、日ロ民間交渉で締結された了解覚書に基づき行われているものです。

来道したムハメトフ・イリヤス氏は、今回が6回目、平成25年以来3年ぶりの来道です。新千歳空港に降り立ったムハメトフ氏は、「久々の北海道で、非常に懐かしい感じがする。以前に試験的操業を手伝ってくれた地元の漁業者に再会できると思うと、非常にうれしい。もちろん、すけとうだら資源に関するデータを得られる貴重な機会なので、肝心の試験操業はしっかりと取り組みたい」との抱負を語ってくれました。

同氏は1月30日まで、操業船に乗船して漁場に赴き、船上で漁獲されたスケトウダラを計測するなどのデータ収集のほか、混獲状況などの確認を行います。本号が出る頃には、興味深いデータを持ってサハリンへ戻り、結果を研究に活かしていることでしょう。



公明党北海道本部懇談会



自民党道連懇談会、水産会・系統団体

ますやひらめ、まつかわ、ほたて・あさり等二枚貝の栽培漁業の推進、漁港・漁場の整備促進、水産基盤整備の予算確保について要望するとともに、系統団体からは北海道漁業協同組合連合会の本間代表理事常務、北海道信用漁業協同組合連合会の大口代表理事副会長などが出席し、担い手・後継者確保や漁業金融対策等の漁業経営構造安定化対策、本道各海域の特性に応じた栽培漁業等の推進、トド等有害生物による漁業被害対策や水産多面的機能発揮対策事業の拡大等の漁場環境保全対策について要望しました。意見交換では、いか釣り漁業やさんま漁業等の漁獲不振に伴う水産加工業での原料確保や公海等におけるさんま資源の国際的な管理強化、老朽漁船の対策などの必要性が検討されました。

民進党北海道総支部連合会との政策懇談会は9月9日、公明党北海道本部との政策懇談会は12月10日にそれぞれ関係者が出席し、同様の内容で実施されました。

平成28年度 北海道水産会第三回理事会開催

平成28年12月7日に平成28年度3回理事会を開催しました。主旨は、「ロシア200海里内におけるさけ・ます流し網漁業禁止に係る代替え漁業の今後の見直し、8、9月の台風・豪雨による災害からの復旧と流木対策、さらに、災害に強い生産構造の確立、自然環境の変化に対応した漁業の推進、資源確保と輸出拡大等攻めの水産業を展開する」でした。

理事会での議案等は、次のとおりです。

■議案第1号

平成28年度上半期貸借対照表、損益計算書（正味財産増減計算書）、貸借対照表及び損益計算書（正味財産増減計算書）の附属明細書、財産目録の承認について

■報告事項第1号

平成28年度上半期事業報告、事業報告の附属明細書について

■報告事項第2号

平成29年「新年の集い」の開催について  
いずれの議案も原案のとおり、承認可決されました。



理事会の様子

# 魚食普及・食育活動

## 魚食普及・食育PR活動

魚食普及を目的とした北海道水産会の「魚食普及・食育PR活動」は、今年度で7年目になり、平成22年度から29年度1月31日までに76回のイベント（料理教室等）を開催しました。今年度は函館市や島牧村など9市町村で、渡島漁業士会（1回）、石狩・後志漁業士会（2回）、檜山漁業士会（1回）、北見女性部連絡協議会（2回）、根室青年部連絡協議会（1回）、北見青年部連絡協議会（1回）、宗谷青年部連絡協議会（1回）、渡島青年部連絡協議会（1回）と共催で開催しました。最近の傾向ですが、小学校、中学校、大学での開催が多く、今年度開催予定のイベントも含めると全体の約七割が学校での開催になります。

食材は例年どおりサケとホタテガイが多く、おのおの10カ所のうち8カ所、7カ所で使用されました。次に多いのがイカで3カ所、ブリの2カ所でした（重複有り）。エゾアワビ、スケトウダラ、コンブ、ニシン及びマダラは1カ所だけで使用され、全食材数は9種でした。料理は定番の刺身、焼き物、鍋物、汁物、唐揚げが比較的多く取り上げられましたが、その他中標津町でのサケフレークは初めての調理実習でした。厚沢部町でのサケイクラとフレークを使った丼物は子供達に強く支持されました。家庭で作れ

ば子供に人気のメニューになるものと思います。各イベントの様子を次ページに掲載しました。一生懸命な、そして楽しそうな様子をご覧ください。参加してくれた皆様、イベントを成功させたスタッフの皆様ありがとうございました。

## ファストフィッシュに新たなカテゴリー

本誌で紹介してきた水産庁プロデュース「魚の国のしあわせプロジェクト」の取り組みにより認定されたファストフィッシュは、平成24年8月から28年8月の4年間で638商品（北海道は22商品）になりました。多くの商品が市場で定着したものの、時間の経過とともに話題性が薄れ、ファストフィッシュの認知度低下が危惧されるようになりました。そこで、ターゲットやカテゴリーを明確にし、商品の「売り」や「特性」をより強く消費者にアピールするため（水産庁・漁政の窓Vol.134、2016）、新たにカテゴリー別ファストフィッシュが設けられました（表-1）。

今回新設のカテゴリーは子供が好む「キッズファストフィッシュ」と地方独特の食べ方を想定した「ふるさとファストフィッシュ」です。このカテゴリーに登録を希望する商品の応募を受け付けています（受付先：水産庁漁政部企画課「魚の国のしあわせ」プロジェクト事務局）。

（表-1）新たなカテゴリー別ファストフィッシュ

ターゲット	子供	国産志向消費者 地域特産品希望者	全年齢
名称	キッズ ファストフィッシュ	ふるさと ファストフィッシュ	ファストフィッシュ
商品 コンセプト	子供が好み、家族の食卓に並ぶ商品や食べ方 ・お弁当用冷凍食品 ・スナック、お菓子系商品	国産魚、地方独特の魚を利用した商品の食べ方 ・国産魚を使った商品 ・地方独特な魚を利用した商品	手軽、気軽においしく、水産物を食べることに及ぶそれを可能にする商品や食べ方

（水産庁：漁政の窓Vol.134、2016）



まずは勉強です(島牧)

僕がやります(厚沢部)

さすが大学生手際が良い(旭川)

生春巻を作ります(紋別)

よく見てね(北見)

ほとんど取れました(厚沢部)

食べるのが一番ですね(北見)

実は男は上手なんだ(稚内)

ブリの骨ってこんなに固いの(函館)

こんなにたくさんフレークができました(中標津)

フレーク丼、なかなかいけます(中標津)

げそも好き(函館)

自分で作ったサケのホイル焼きは美味しいです(紋別)

イクラとサケの親子丼、うまい!(厚沢部)

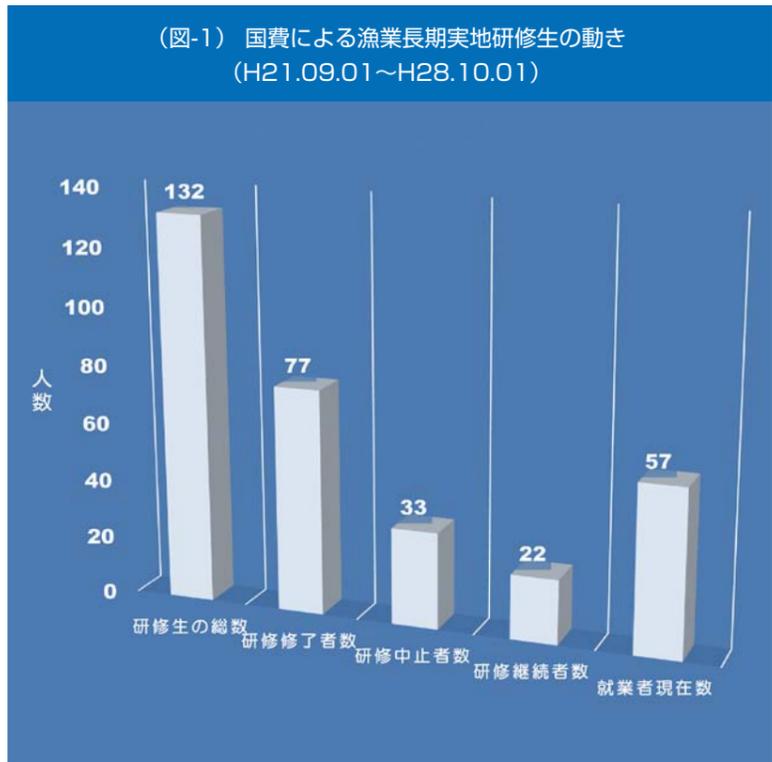
指導ありがとうございました(旭川)

お疲れ様でした(稚内)

みんなではいポーズ(函館)

やっぱり魚は刺身(函館)

北海道漁業の担い手を確保・育成するため、平成21年8月に発足した北海道漁業就業支援協議会は、これまで132名の国費・道費（国費研修修了生の一部が研修不足分を道費で研修する）研修生を受け入れ、道内23の漁協に属する82名の指導者の下で研修が行われてきました。現在（1月31日）研修中の人は22名いますが、研修修了者77名の5割以上が漁業者として働いています（図-1）。



平成28年度の協議会活動としては、5月28日（土）に「北海道漁業就業支援フェア2016 in さっぽろ」の開催、6・11月には研修生との面談

長期漁業研修生への面談活動

面談活動は、漁業研修が計画どおり行われていることの確認と研修生の研修進捗状況や問題点を把握することを目的に行われています。雇用型は1年以内の研修なので、全研修期間中に1回（2ヶ年度にまたがっていても1回）、独立型は3年以内の研修なので、研修修了までに原則3回行っています。

今年度は平成27年度からの国費継続研修生8名（対象者は9名だが、1名は都合により未実施）と同規研修生14名および道費新規研修生2名の計24名を対象に各地域の漁協で面談を行いました。面談の結果、研修中止者もなく、多くの研修生が意欲的に研修を続けており、研修は計画どおりに進んでいることが分かりました。

この平均年齢は過去の平均値と概ね同じでした。研修生の出身地は札幌が8名、札幌以外の道内が11名、道外は5名で、道外の比率が約2割です。研修漁業種（主な漁業種）はホタテ養殖業9名、コンブ養殖業が8名、定置網漁業が4名、採介藻漁業2名、刺網漁業1名で、養殖業が非常に多い結果となりました。



を実施しました。その他、ウェブサイト、電話、面談等により漁業就業に関する情報の収集や提供なども行い、漁業就業相談窓口として活動してきました。

国費の長期研修事業においては、今年度は前年度からの継続研修生が17名（前年度12名）、新規研修生は14名（同10名）でした。道費事業では継続者はおらず、新規に2名（同3名）が研修を開始しました。国費継続研修生17名の内9名は9月までに研修を修了し、道費研修生1名が11月で研修を修了しています。平成29年1月31日現在国費事業は22名が、道費事業は1名が研修を継続中です。

今年度は2回の就業支援フェアの開催を計画しており、今年度最後のフェアを平成29年2月18日（土）に札幌市で開催する予定です。開催を告知するチラシは全道のハローワーク、高校、大学、市町村、道、及び漁協などに配布しました（図-2）。



(図-2) 漁業就業支援フェアを告知するチラシ

最近ではホタテを扱う漁業が好調なため、ホタテ養殖業の研修生が増えてくるのかもしれませんが、コンブ養殖業が多いのは、単純にコンブ養殖業の盛んな利尻島の研修生が多いからです。

若干の問題は各自抱えているものの、概ね研修生の多くは順調に浜の生活に馴染んでいると思われました。ただ、数人は漁業就業に疑問を感じていましたので、今後の方向性について相談に応じました。

今年度の研修生には協議会初の女性が含まれています。彼女は新潟県出身で、利尻富士町で研修に励んでいます。短期のアルバイトで利尻島に来て、漁業の魅力にはまったとのことでした。

今回の研修生の10名は独立型研修生なので、研修修了後の自立に向けての取り組みが大変重要になります。独立に向けた取り組みについては、研修生、指導者及び漁協と相談しながら対応していきます。



利尻漁協の研修生集合!

北方地域漁業権補償推進委員会理事会と  
代議員会の合同会議開催

平成28年度北方地域漁業権補償推進委員会の理事会及び代議員会合同会議を17名の参加者により11月29日開催しました。

1. 高橋委員長（一般社団法人北海道水産会顧問）の挨拶

日口関係においてのビッグニュースは、12月15、16日にプーチン大統領の訪日が計画され、安倍晋三総理との首脳会談が行われることです。会談の内容は経済協力、共同開発、人道分野、環境分野、漁業振興、そして北方領土問題等多岐にわたり会談が行われると思います。報道では、様々な内容となっていますが、一步一步の前進を望んでいるところです。このことが推進委員会の目的である漁業権補償実現へ繋がるものと考えております。

2. 合同会議における審議は次のとおりです。

1) 平成27年度事業報告及び収支決算について  
原案のとおり承認されました。

2) 平成28年度事業計画（案）及び収支予算（案）について  
原案のとおり承認されました。

3) 任期満了に伴う役員改選について  
役員の方々は、次のとおり選任されました。

- |      |         |    |          |
|------|---------|----|----------|
| 委員長  | 山崎峰男(新) | 理事 | 得能 宏(再)  |
| 副委員長 | 小倉啓一(再) | 理事 | 永野弥三雄(再) |
| 副委員長 | 駒井惇助(再) | 理事 | 楠木彦三(再)  |
| 理事   | 宮下 繁(再) | 監事 | 宮谷内亮一(再) |
| 理事   | 岩田宏一(再) | 監事 | 高野宏康(新)  |



合同会議の様子

4) 要望活動の実施について  
原案のとおり承認されました。

5) その他

・高橋委員長より退任の挨拶

平成19年より委員長の職を全うできましたのは、皆様方のご支援があったからこそと思います。感謝申し上げます。

・山崎新委員長より就任の挨拶

3月末まで道水産林務部長の職にありましたので、漁業権補償につきましても多少の知識もごいしますので、皆様方と一緒に進捗して参りたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

北方地域漁業権補償推進委員会の道及び中央への要請

北方地域旧漁業権補償措置の実現に関しては、昭和25年に以降60年以上にわたって毎年補償要望を行っているが、全く進展が無く現在に至っていること、元島民の高齢化に伴い物故者が増加している中、早期の補償実現を要望し、とくに漁業権問題は国内問題であること、来月にはプーチン大統領の訪日があり、何等かの動きがあるものと期待しているところ等を要望しました。

要望先につきましては、次のとおりです。

11月29日に道議会議長及び副議長、北方領土対策特別委員会委員長、北方領土対策局長、水産林務委員長、水産林務部長、また11月30日には、衆議院及び参議院沖縄及び北方問題に関する特別委員会委員長と理事及び委員、内閣府大臣政務官及び内閣府副大臣（沖縄及び北方対策担当）、自民党道連会長、公明党北海道本部代表、民進党北海道代表。



小野寺水産林務部長への道議会への要望内容の説明  
要望書提出

副会長のつぶやき

皆さんはじめまして

昨年の6月に水産会副会長に就任した山崎です。これからよろしくお願ひ致します。

昨年の10月に「北方四島周辺水域における日本漁船の操業(安全操業)に関する協定」に基づく民間交渉の団長としてモスクワに行って来ました。約10年前に、道庁の課長時代オブザーバーとして交渉に臨んだ経験がありましたが、団長としては初陣となりました。10年振りの交渉は、正直予想よりはるかに厳しいものとなりました。5日間と短い日数でしたが、日本側は連日徹夜をしいられました。結果として数量等前年とほぼ同じ条件となりましたが、ロシア側は四島周辺海域における管轄権をこれまで以上に強く主張して来たので連日の徹夜になったわけです。

今後、春には貝殻島昆布の交渉も予定されていますが、予断を許さない状況といえます。このように先行きが不透明な時代に入りましたが、本道漁業の発展のため頑張りますので、応援よろしくお願ひします。



厳しい姿勢で交渉に臨む小生(中央)



激論の末、妥結は笑顔と握手で



曇り空、この時期ならではのモスクワの風景

北海道水産会 No.268

発行日 平成29年2月17日  
発行 一般社団法人 北海道水産会  
発行人 川崎 一好  
編集 一般社団法人 北海道水産会  
住所 札幌市中央区北3条西7丁目(北海道水産ビル内)  
電話 (011)271-5051  
FAX (011)271-5053  
E-mail fish10@h-suisankai.or.jp  
印刷 株式会社 水産北海道協会